

# 医療社会科学Ⅰ〈A4〉

## 教員名

教養・医学教育大講座 医療社会科学

准教授 本郷 正武

## I 一般学習目標

医療を通して、社会（問題）の成り立ちや医師-患者関係のあり方について、おもに（医療）社会学の観点から講義する。とりわけ、医療者および患者が形成する社会圏の相違に着目し、そこで生じる「すれ違い」や問題を把握する枠組みを検討する。

## II 個別学習目標

下記のような「社会の謎解き」の方法論と先行研究、具体的事例を学んで欲しい。

- ・現代社会で「あたりまえ」とされていることをいったん「疑う」
- ・「あたりまえ」となるまでのプロセスについて見る目を養う
- ・医療を通じて社会（問題）について把握できる分析視角を得る
- ・医療者とは独立に患者が独自に作り上げる空間について知る
- ・血液事業をめぐる医療・患者・社会のあり方を知る
- ・医師と患者との「すれ違い」のメカニズムを理解できる
- ・医療をめぐる集合行為の社会的意義について理解できる
- ・インフォームド・コンセントについてその成り立ちから把握できる
- ・医師-患者関係の捉えられ方の変容を知る
- ・未知の病いや危機への対処の方法について考察できる
- ・依存症をめぐる社会的次元における諸問題を理解できる

## III 教育内容

以下のように講義を進める。進度により内容が前後することがある。

1. イントロダクション
2. 「社会」を把握すること（1）——社会科学の分析視角
3. 「薬害HIV」問題の検討（1）——日本の血液事業のあゆみ
4. 「薬害HIV」問題の検討（2）——血液の安全性をめぐる
5. 「薬害HIV」問題の検討（3）——社会問題の社会的構築
6. 「薬害HIV」問題の検討（4）——「薬害C型肝炎」問題
7. 「薬害HIV」問題の検討（5）——インフォームド・コンセントの成り立ち
8. 「社会」を把握すること（2）——リスクと危険
9. 依存症の世界（1）——薬物依存症の捉えられ方
10. 依存症の世界（2）——アルコール依存症とその回復
11. 依存症の世界（3）——刑罰の対象か治療の対象か
12. 医師-患者関係（1）——告知場面にみる関係性の変容
13. 医師-患者関係（2）——信託モデルの提示
14. まとめ

## IV 学習および教育方法

講義形式。適宜、映像資料や配付資料により先行研究ならびに具体的事例を提示する。

## V 評価の方法

期末試験。講義後に課すコメントペーパーの内容が優れている場合は加点する。

## VI 推薦する参考書

講義中に随時紹介する。